



遠江で商う近江商人

「近江商人」という言葉を聞いたことはないでしょうか。近江商人とは、近江（現在の滋賀県）に本宅を構え、近江以外において商いをした商人のことです。例えば伊藤忠商事株式会社や丸紅株式会社は近江商人を源流とする企業です。

そんな近江商人は浜松でも商いをしていました。それらの内の一つの商家が、現在も北区三ヶ日町三ヶ日で「日野屋」という屋号で酒屋を営んでいます。



現在の日野屋（北区三ヶ日町三ヶ日）

同店は近江国蒲生（がもう）郡小谷（こだに）村（現在の滋賀県蒲生郡日野町）出身の階堂（かいどう）嘉右衛門の店の流れをくんでおり、同家は十九世紀前半には浜松で商いをしていました。

階堂家によって経営された店は板屋町本店、三ヶ日店、志都呂店、後道（うしろみち）店、油店の五店でした。商いの内容はそれぞれ、板屋町本店は酒・醤油の醸造・販売、三ヶ日・志都呂店は酒の醸造販売、後道店は大豆・麴・味醂・醤油等の小売り、油店は蠟燭・油等の小売りでした。

江戸時代から続く商いの様子の一端は、現在も営業している三ヶ日の日野屋でも見ることが出来ます。店舗には、同店で受け継いできた酒造りや商売に関する道具、以前の当主が嗜んだ俳諧の資料等が展示されています。

また、同店には近年まで近江の本宅があり、「在所登り」（本宅へ行くこと）の記憶が残っています。従業員を近江出身者から採用することも行われていました。

近江商人は、日本の各地で商いをし、社会・経済にとって重要な役割を果たしてきました。また、今回ご紹介した日野屋のように、出店の所在地に根つき、現在も商いをしている店もあります。

近江にとって欠かせない存在である近江商人ですが、商いを行ってきた各地域にとっても欠かせない存在です。このような近江商人の流れをくむ商家を見出だしていきたいものです。

【参考】

日野町史編さん委員会編『近江日野の歴史』第七巻（滋賀県日野町、二〇一二年）

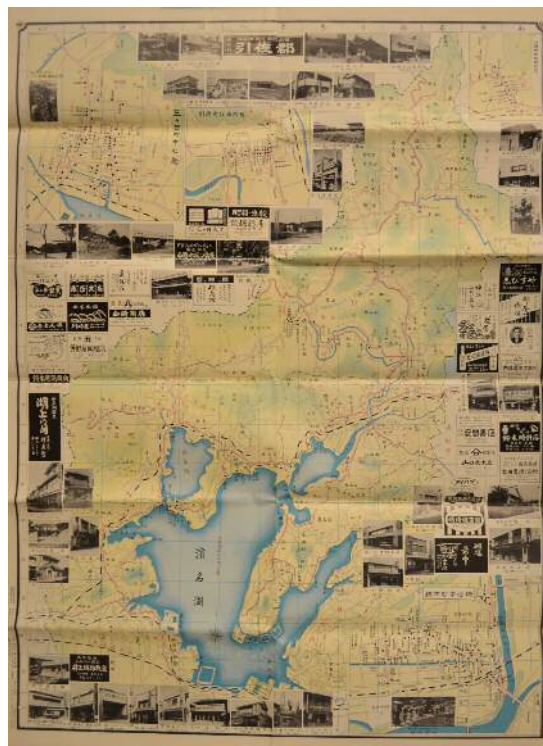
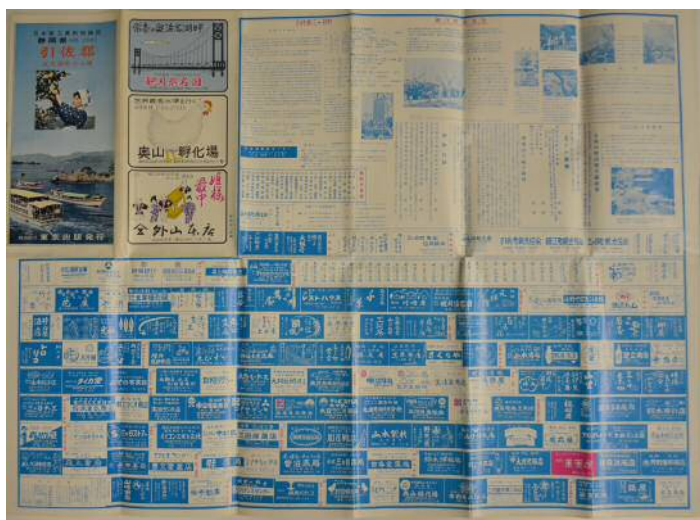


日野屋の印影

まるうろこ
家印は (丸鱗)

【博物館所蔵資料の紹介】

日本商工業明細図静岡県引佐郡



この資料は二面により構成される、引佐郡についての地図および商店一覧です。出版されたのは昭和40（1965）年です。片面は引佐郡の旧細江町・引佐町・三ヶ日町を中心とした地図となっています。地図上には、引佐郡内の商店の広告や写真が散りばめられています。もう一方の面は、各町の概要や観光案内と商店一覧（広告）とにより構成されています。この資料は折り畳み式で、実際に持ち歩いて使用することも想定していたと考えられます。

この資料で注目されるのは、やはり各商店の広告でしょう。各商店が工夫をこらした商店名や家印等のデザインが並んでいます。地図の面にも各商店の位置が記載されていますが、見る者に訴えかける力はやはり広告の方が圧倒的です。これを見ているだけでも、各商店のイメージがかたちづくられるでしょう。表面でご紹介した日野屋についてもこの商店一覧に記載されています。

今から55年前の街並みや商店の様子、各町や店が何をアピールしたかったのかを考えてみるのもよいでしょう。

催し物のご案内

★小展示「道具たちの100年」

開催中～3月1日（日）

小学校社会科「古い道具と昔の暮らし」に合わせ、暮らしの道具の変遷を紹介します。

★昔のくらし体験館

1月25日（土）、26日（日）

- 七輪でせんべいを焼いてみよう
（2枚で50円）
- 昔の道具を体験してみよう
（石臼・ひのし・炭火アイロン・背負子・鯉節削り・洗濯板・黒電話等）
- 昔の道具実演
（火打ち石、行灯、石油ランプ、火消し壺）
- 昔のおもちゃで遊んでみよう
（お手玉・こま・けん玉・輪投げ・だるま落とし等）
- 節分のお面作りコーナー

★かやぶき屋根の下で聞く日本の昔ばなし

2月8日（土）午後2時～

会場：蜷塚公園内旧高山家住宅

※事前申込み不要。直接、会場へ。

浜松市博物館

開館時間：9時～17時

1・2月の休館日：1/20、27

2/3、10、12、17～21、25

〒432-8018 静岡県浜松市中区蜷塚四丁目22番1号

電話：053-456-2208 FAX：053-456-2275

Eメール：hamahaku@city.hamamatsu.shizuoka.jp

HP：https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/hamahaku/